

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月9日
【四半期会計期間】	第15期第3四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）
【会社名】	U L S グループ株式会社
【英訳名】	ULS Group, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 漆原 茂
【本店の所在の場所】	東京都中央区晴海一丁目8番10号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーX棟14階
【電話番号】	03-6890-1600
【事務連絡者氏名】	財務・経理担当 取締役 高橋 敬一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区晴海一丁目8番10号 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーX棟14階
【電話番号】	03-6220-1416
【事務連絡者氏名】	財務・経理担当 取締役 高橋 敬一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第3四半期 連結累計期間	第15期 第3四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自平成25年 4月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 4月1日 至平成26年 12月31日	自平成25年 4月1日 至平成26年 3月31日
売上高 (千円)	2,640,136	2,805,608	4,277,934
経常利益 (千円)	325,751	544,344	570,050
四半期(当期)純利益 (千円)	196,239	404,005	279,694
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	281,295	338,713	351,572
純資産額 (千円)	2,917,080	3,280,811	2,991,258
総資産額 (千円)	3,419,347	3,879,660	3,841,035
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	34.83	71.16	49.58
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	34.40	70.72	49.02
自己資本比率 (%)	84.0	83.0	76.2

回次	第14期 第3四半期 連結会計期間	第15期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 10月1日 至平成26年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.72	22.82

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）経営成績に関する分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、12月発表の日銀短観によると、大企業製造業のDI（業況判断指数）が、プラス12と前回調査から1ポイント悪化したものの、設備投資計画は前回調査から上方修正されるなど依然として堅調さを維持しています。

一方、当社の属する情報サービス業界については、同日銀短観によると、2014年度ソフトウェア投資計画が、前回調査の前年度比5.4%から3.9%に下方修正（全産業）され、一部に先行き不透明感がでていますが、全般としてはIT投資の拡大基調は継続しています。このような経営環境の下で、当第3四半期連結累計期間の当社の経営成績は下記のとおりとなりました。

売上高	2,805,608千円	（前年同期比6.3%増）
営業利益	539,413千円	（前年同期比67.2%増）
経常利益	544,344千円	（前年同期比67.1%増）
四半期純利益	404,005千円	（前年同期比105.9%増）

特筆すべき事項を記載すると下記のとおりです。

売上高については、公共、金融、製造、空運、建設、サービス業等を中心とする既存顧客のIT投資の拡大により、例年以上に受注が堅調に推移したため、前年同期には複数年に渡る大型請負案件の売上計上があったにも関わらず、第3四半期連結累計期間としては過去最高の2,805,608千円（前年同期比6.3%増加）となりました。

損益面については、前述のとおり堅調な受注による高稼働を維持し、さらに前年同期にあったような不採算案件の計上は、当第3四半期連結累計期間にはなかったため、売上総利益率は前年同期の29.2%から35.4%に大幅に改善しました。このため、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ539,413千円（前年同期比67.2%増加）、544,344千円（前年同期比67.1%増加）となりました。四半期純利益については、前述の理由に加え、投資有価証券の売却益を計上したことにより404,005千円（前年同期比105.9%増加）となりました。第3四半期連結累計期間としては、営業利益、経常利益および四半期純利益の全てが過去最高を記録しました。

（2）財政状態に関する分析

資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末から大きな変動はなく、前連結会計年度末比1.0%増加の3,879,660千円となりました。

また、負債については、主に前連結会計年度末の未払金等や賞与の支払いにより、前連結会計年度末比29.5%減少の598,848千円となりました。

純資産は、主に利益剰余金の増加により前連結会計年度末比9.7%増加の3,280,811千円となりました。

（3）研究開発活動

該当事項はありません。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社グループは、事業ドメインである「戦略的IT投資領域」への高付加価値サービスを通じて顧客満足度を向上させることにより安定的に事業成長することを基本的な経営方針としています。したがって、当社グループの事業遂行には、「戦略的IT投資領域」に精通した者が取締役や業務執行者に就任し、事業の方針を決定し、業務執行体制を構築することが必要であり、これによってはじめて当社グループの事業価値の維持・向上が図られるものと認識しております。以上が、会社の支配に関する基本方針であります。

現時点において、当社株式の大規模な買付行為に関する具体的な対応方針は特に定めておりませんが、上記の方針に照らして必要であると判断した場合には、社内外の専門家を含めて検討したうえで適切に対応策を講じます。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,200,000
計	23,200,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月9日) (注)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,106,800	6,106,800	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,106,800	6,106,800	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権等の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日 (注)	5,200	6,106,800	975	835,365	975	825,601

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 420,800	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,680,700	56,807	-
単元未満株式	普通株式 100	-	-
発行済株式総数	6,101,600	-	-
総株主の議決権	-	56,807	-

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
U L S グループ株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番10号晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワー X 棟14階	420,800	-	420,800	6.90
計	-	420,800	-	420,800	6.90

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,065,593	2,255,798
売掛金	1,734,979	571,660
仕掛品	19,076	288,074
その他	213,671	174,030
流動資産合計	3,033,320	3,289,563
固定資産		
有形固定資産	35,504	28,464
無形固定資産		
のれん	66,872	62,114
その他	7,296	6,574
無形固定資産合計	74,169	68,688
投資その他の資産		
投資有価証券	570,585	366,796
その他	127,455	126,145
投資その他の資産合計	698,041	492,942
固定資産合計	807,715	590,096
資産合計	3,841,035	3,879,660
負債の部		
流動負債		
未払金	162,681	126,314
未払費用	165,695	61,453
賞与引当金	250,416	94,288
未払法人税等	127,427	139,056
その他	122,030	157,560
流動負債合計	828,250	578,673
固定負債		
その他	21,526	20,175
固定負債合計	21,526	20,175
負債合計	849,777	598,848
純資産の部		
株主資本		
資本金	831,615	835,365
資本剰余金	1,172,044	1,175,794
利益剰余金	1,020,851	1,368,196
自己株式	158,756	158,756
株主資本合計	2,865,753	3,220,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62,785	-
その他の包括利益累計額合計	62,785	-
少数株主持分	62,718	60,212
純資産合計	2,991,258	3,280,811
負債純資産合計	3,841,035	3,879,660

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	2,640,136	2,805,608
売上原価	1,869,146	1,811,518
売上総利益	770,990	994,089
販売費及び一般管理費	448,457	454,676
営業利益	322,532	539,413
営業外収益		
受取利息	132	158
受取配当金	1,724	3,448
その他	1,362	1,323
営業外収益合計	3,218	4,930
経常利益	325,751	544,344
特別利益		
投資有価証券売却益	-	73,137
その他	-	11
特別利益合計	-	73,149
税金等調整前四半期純利益	325,751	617,493
法人税等	138,865	215,994
少数株主損益調整前四半期純利益	186,885	401,499
少数株主損失()	9,354	2,506
四半期純利益	196,239	404,005

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	186,885	401,499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94,410	62,785
その他の包括利益合計	94,410	62,785
四半期包括利益	281,295	338,713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	290,649	341,219
少数株主に係る四半期包括利益	9,354	2,506

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	13,437千円	8,769千円
のれん償却費	14,162千円	4,758千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	42,042	750.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	56,660	10	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(注)平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額は当該株式分割を考慮した額を記載しております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

当社グループは、コンサルティング事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

当社グループは、コンサルティング事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	34円83銭	71円16銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	196,239	404,005
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	196,239	404,005
普通株式の期中平均株式数(株)	5,634,854	5,677,178
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	34円40銭	70円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	70,324	35,845
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)平成25年5月29日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に、当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月9日

U L S グループ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 手塚 正彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大野 開彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているU L S グループ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、U L S グループ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。